手練

S H U R E N

第 21 号

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会

表　紙

　会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目　次

■文化財屋根葺士養成研修 第25期生 修了式 並びに 第26期生 開講式 ……2

■文化財屋根葺士養成研修 第26期生 前期研修 ……7

■文化財屋根葺士養成研修 講義内容の紹介 ……8

■令和７年度「文化財屋根葺士養成研修」の座学 …… 11

■令和７年度 檜皮採取者（原皮師）中級研修 …… 12

■令和７年度 檜皮採取査定会 …… 13

■令和７年度 檜皮採取視察会及び見学会 …… 14

■令和７年度 第４回指導者,準会員合同研修会…… 16

■令和７年度 茅葺中級研修 …… 17

■令和７年度 茅葺きフォーラム …… 18

■令和７年度 屋根板製作者養成研修 …… 20

■主任文化財屋根葺士 第25回 検定会 実施 …… 21

■主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催…… 21

■令和７年度 文化財研修会 …… 22

■令和７年度 第１回文化財フォーラム（檜皮葺）開催 …… 24

■令和７年度 ふるさと文化財の森システム推進事業
「森が支える日本の技術　2025公開セミナー」開催 …… 26

■文化庁主催「日本の技フェア」開催 …… 29

■竹中大工道具館企画展「植物×匠　めぐるいのち、つなぐ手しごと」参加 …… 30

■準会員 名簿 …… 31

■あとがき

文化財屋根葺士養成研修
第25期生 修了式 並びに 第26期生 開講式

期日 ● 令和７年４月17日（木）
会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

文化財屋根葺士養成研修第25期生の修了式、並びに文化財屋根葺士養成研修第26期生の開講式を執り行いました。多数の御来賓、関係各位の御臨席のもと、研修生たちは皆緊張した面持ちで式に臨みました。日本の文化財を継承していくという仕事の重要性や意義を十分理解しながら、今後は各会社の中で一人前の職人を目指し、精進していただきたいと思います。また、新たな研修生たちが、これから知識と技術の習得に励むことになります。気を引き締めて、日々の研鑽に努めてください。

研修に際しまして、ご指導をいただきました関係各位、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

［文化財屋根葺士養成研修 第25期生］

●末岡（すえおか） 治人（はると） ／ ㈱小山社寺工業所
●友井（ともい） 康介（こうすけ） ／ ㈱友井社寺
●平尾（ひらお） 零（れい） ／ ㈱松村工務店

［文化財屋根葺士養成研修 第26期生］

●足立（あだち） 諒（まこと） ／ ㈱児島工務店
●石原（いしはら） 直和（なおかず） ／ ㈱児島工務店
●竹内（たけうち） 蓮太（れんた） ／ ㈱村上社寺工芸社
●徳田（とくだ） 翔琉（かける） ／ ㈱村上社寺工芸社

京都市文化財建造物保存技術研修センターにて

来賓祝辞

文化庁文化資源活用課
修理指導部門 文化財調査官
結城　啓司様

全国社寺等屋根工事技術保存会様は、現在、檜皮葺・柿葺、茅葺、檜皮採取、屋根板製作の４つの技術で国から選定保存技術の保存団体として認定されています。これはすなわち、この４つの技術について、その後継者育成のための研修を着実に実施されている団体であることをもって認定させていただいています。その中で一番初めに認定されたのは檜皮葺・柿葺の技術ですが、昭和51年５月４日に認定されました。先程、会長のご挨拶の中で50年とありましたが、来年ちょうど選定・認定から50周年という記念すべき年を迎えられます。

この50年間、もちろん私はずっとその研修を見てきたわけではありませんが、様々な資料や記録等を読み返してみると、文化財建造物、あるいはその職人、あるいはそういったものを取り巻く社会環境が大きく変化してきていると思います。その中で、このような研修をずっと続けておられて、さらに後継者を着実に育成されてきたことは本当に大変なことであり、本当に感謝する次第でございます。

その間、様々な変化や課題への対応があったと思います。４つの技術が次々と認定されてきたということもございます。また、材料の問題もございました。平成10年代前後には全国的に檜皮が取れなくなり、檜皮が出回らないというようなこともございました。そこで、平成18年度から文化庁が始めたのが、「ふるさと文化財の森システム推進事業」というものです。そちらも来年で20周年となります。

20年、50年というと長い年月ですけれども、その中でも環境に合わせて研修や資料採取をしていただいていることは本当に有り難く思うと同時に、これからは様々な変化に対応していただく必要があると感じます。変化のきっかけとして、令和２年にユネスコ無形文化遺産に「伝統建築工匠の技」が登録されたことがあり、それなりに大きな注目を浴びたとこちらは認識しております。そこで、文化庁では、「文化財の匠プロジェクト」を開始して、これまで手薄だった原材料や資材に関して、またその技術者の技術継承、後継者育成を確実に実施していこうという取り組みを始めております。

その中で、令和６年４月には、文化財補助金の交付要綱の中での特殊条件として、「伝統技術が必要な工事においては選定保存技術保持者や保存団体に属する者等、高い技術を有するものを使用しなければならないこと」と記載しております。それを受けて、「高い技術とはどういうものか、またその技術をもった人がどこにいるのか、あるいはその技術は具体的にどういうものか、そういったことが明確になるような資格制度のようなもの、そしてそういった情報を対外的に発出していく」ということが求められており、今まさに文技連をはじめとして、そのような認定制度、資格制度、情報発信などに向けて動き出されていると承知しております。

繰り返しになりますが、この50年間、皆様方が大変なご苦労をしながら実施されてきた研修制度はこのままで良いのか、あるいはどのように改善すれば良いのか、どうすれば今の時代に対応できるのか、といったことを見直す良い機会だと思います。当然、今まで維持してこられた研修のすべてを変えることは必要ないと思いますが、改めて今の時代に何をすべきかを検討していただければと考えております。

これから２年間、第26期生の方々は長い時間をかけて研修を受けていただくことになると思いますが、今申し上げたように文化財を取り巻く社会や行政などが大きく変わってきているということを心に留めながら、楽しく充実した研修になっていただければと思います。また、研修を終えた第25期生の方々は、研修で培った技術や経験を、これからの現場や職場、そして社会で活かしていただければ幸いです。

皆様の益々のご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

来賓祝辞

京都府教育庁指導部
文化財保護課
参事　島田　豊 様

本日は、文化財屋根葺士養成研修の第25期生が修了式を、第26期生が開講式を迎えられること、そして、その修了式・開講式がこのように盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。また、本日ご参加の保存会の方々をはじめ、文化庁、関係機関の皆様には、日頃より京都府内の文化財建造物の保護に関して大変お世話になっており、京都府の文化財建造物行政に関わる技術者を代表して、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、御存知の通り京都府内にも数多くの檜皮葺・柿葺の建造物が残され、守り伝えられています。そして、国宝・重要文化財に指定されている建造物について、京都府が受託する形で１年あたり約20件の修理事業を行う中で、その３分の１程度は檜皮葺・柿葺の屋根をもつものとなっています。このような修理事業を実施していくには、文化財所有者の建造物を守り伝えていこうとする想いが欠かせませんが、加えて修理に関係する技能者がその技術を確実に守り伝えていくことも重要となります。

そのような観点からは、今回修了式を迎えられた３名の方々には、今後、修理現場においてお目にかかれることを、そしてこの研修の中で培った技術を発揮されている姿を拝見できることを楽しみとさせていただきます。また、今回開講式を迎えられた４名の方々には、このような修理現場に対応していくことができるように、これからの研修で専門的な技術や知識をしっかりと身につけていただければと考えています。

加えて、研修を担当されている保存会の方々、また講師の方々におかれましては、通常の業務などを行う中での対応、大変ご苦労様でございます。京都府におきましては、この研修が国庫補助事業として行われることから、その事務を経由するという役割を担っておりますが、今後の研修が滞りなく運び、有意義なものとなりますことをお祈り申し上げます。

以上、大変簡単ではございますが、祝辞とさせていただきます。改めてとはなりますが、本日は誠におめでとうございます。

来賓祝辞

公益社団法人
全国国宝重要文化財所有者連盟
常務理事　鶴岡　典慶 様

本日は、文化財屋根査士の修了式並びに開講式の開催、誠におめでとうございます。ご紹介いただきました（公社）全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事の鶴岡でございます。

全文連という組織については、研修生の皆さんは初めて聞くかもしれませんが、全国の国宝重要文化財である建造物や美術・工芸品の所有者が集まって活動している団体です。またこの活動にご支援いただく各関係の方々にも賛助会員として入っていただいており、現在約700の会員で構成されています。この保存会の方々も数多く賛助会員として参加していただいており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、私たち文化財所有者は、日々文化財の管理とともに定期的な大きな修理に多くの経費を必要とし、正直なところ大変苦労しているのが実情です。特に檜皮葺・柿葺になりますと30年から40年毎の葺き替えがあり、最近は檀家や氏子等からの支援が困難となってきて非常に大きな負担になるため、全文連としては少しでも負担の軽減が図られるよう文化庁や財務省に補助金等の要望活動を行っているところです。近年は、国の予算は減額されることなく少しずつ増加しており、保存にとって非常に有り難く、今後も引き続き要望活動に取り組んでいきたいと思います。ただ、各地域の都道府県や市区町村の支援が最近手薄になってきていますので、その支援についても強く要望していきたいと思います。

このお話をさせていただいたのは、皆さんが施工される文化財の修理には、国民からの多くの税金が用いられているということを認識しておいていただきたいとの思いからです。また、文化財所有者は、お金を確保することが大きな責務ですが、実際修理をしていただくのは各専門的な方々に委ねることになります。そういう意味では信頼をして皆さんにお任せをするという立場になりますので、しっかりとした技術をもって励んでいただきたいと思います。

屋根は一番に雨を防ぐという役割があります。日常的に日本は雨が多いので、それを防ぐのが一番ですが、最近は勢力の大きな台風が多くなってきましたので、風に耐えうる強度も必要です。さらに「少しでも長持ちしてほしい」ですし、それに加えて「美しく」という見栄えも期待されます。出来上がった時に関係者の方々が屋根

講師祝辞

OFFICE 萬瑠夢
代表　村田　信夫 様

本会の文化財屋根葺士養成研修の終了生、及び同研修の新たな受講生に、研修講師を代表してお祝いの言葉を贈ります。

私が担当した講義は、文化財保護法と文化財建造物演習で、何れも暑い時でした。研修生は、日頃は檜皮葺などの現場作業なので、終日の座学はさぞや大変だったのではと想像しています。建造物演習は、滋賀県と京都府にある国宝建造物などでした。研修生からは積極的な質問がありましたので、真摯に研修されているなと嬉しく感じました。

また、演習先の所有者には、何れの見学にも特別なご配慮をいただきました。これは所有者と本会に信頼関係があり、本会のことをよくご理解されているからだと思います。

次いで新たな受講生に、私が日頃若い人に話していることを伝えます。簡単に転職しないでください。昨今は転職サイトで、大いに転職を勧めています。仕事を続けていると、自分には適していないのでないか、人間関係が上手くいかないなどの迷いが生じてくるでしょう。しかし、最適な職業に就いている人は、そう多くはないと思います。何処にいても対人関係は避けては通れないものです。

ところで、この研修を含め文化財修理技術保存連盟の研修は、国庫補助を受けています。さらに研修関係者の労力を含むと人的、金銭的には膨大なものになります。新たな受講生は、このことを十分に理解した上で、どうか実りある研修にしてください。

を見て綺麗だと喜んでいただけることは、所有者として非常に嬉しいことでもありますので、そういう様々な課題や要望に対して対応していただけるよう日々頑張っていただきたいと思います。

また歴史的建造物はすべて同じではありません。一定のパターンはありますが、一つ一つ違うことを認識し、この建物にはどんな特徴があるかを常に考えながら、「それぞれの屋根のラインの個性を活かす」との意識を持って、仕事に励んでいただければ有り難いです。

25期生の方は、いよいよ本格的に工事現場に入り、先輩方と一緒に仕事をしていくわけですが、まだまだ学ぶことはたくさんあると思いますので、先輩方を見ながら技術を向上させていってください。最近の先輩方は昔と違って優しいので皆さん丁寧に教えてくださる方も多くなったようですが、やはり自分自身でしっかり見て学んでいくことが大事ですから、技を盗む気持ちで取り組んでいって欲しいと思います。

26期生の方はこれから研修が始まり、会社内だけでなく他の企業の方や先輩等、普段会わない方からいろんな技術を教えていただく貴重な機会です。研修を終えた後にはこのような機会は少ないですから、この研修を有意義なものにして技術を学んでいってください。

最後になりましたが、この研修が今後も益々充実され後継者の育成が図られますとともに保存会のさらなるご発展をお祈りしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

激励の言葉

京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化財保護課
文化遺産普及・活用担当課長
井口　雅文 様

本日は、文化財屋根葺士養成研修の修了式及び開講式がこのように盛大に執り行われますことを心からお慶び申し上げます。また、全国社寺等屋根工事技術保存会におかれましては、友井会長を先頭に、文化財の修理事業や伝統文化の技術継承に御尽力いただいておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

まず、第25期生として、研修を修了された末岡治人さん、友井康介さん・平尾零さんの３名の皆様に、心よりお祝いを申し上げます。２年間にわたる研修課程の成果は、日本の伝統文化を未来へ繋ぐ、貴重な財産となることでしょう。皆様の技術と情熱が、日本の貴重な文化財を未来へと継承していく力となることを期待しております。

また、新たな研修生として足立 諒さん、石原 直和さん、竹内 蓮太さん、徳田 翔琉さんの４名の皆様を、お迎えできましたことを、誠に喜ばしく思います。

伝統的な建築技術を継承し、発展させていく上で、様々な困難なこともあるかと存じますが、今日のこの出会いを糧に、仲間とともに切磋琢磨し、文化財を守る担い手として大きく成長されることを期待しております。

檜皮採取や伝統的な屋根葺など、文化財保存の技術は、わが国の貴重な文化遺産です。50年近く前、技術者の高齢化の危機感から文化財保護法が改正され、これらの技術が保護対象となりました。しかし、今もなお、伝統技術の継承と後継者の育成は喫緊の課題です。

そのような中、文化財建造物保存技術研修センターが中心的な役割を果たし、ここに研鑽を積まれる皆様がいらっしゃることを誠に心強く感じております。

京都は古都としての豊かな歴史と文化を誇り、数多くの貴重な文化財を有しており、その最たるものといえる世界遺産「古都京都の文化財」は昨年12月に登録から30周年の節目を迎えました。京都市としましても、引き続き、国民の宝といえる文化財の保存に欠くことのできない文化財保存の技術の支援に力を尽くしてまいります。

結びにあたりまして、研修を修了された皆様、あるいはこれから受講される皆様が、文化財の保存技術者としての研鑽を積まれ、将来の文化財の守り手として御活躍いただきますこと、並びに、本日御出席いただいております皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますが激励の言葉とさせていただきます。

修了生謝辞

文化財屋根葺士養成研修
第25期生　末岡 治人

私たちは、この研修期間の中でたくさんの経験をしました。研修生一人一人がここでしかできない様々な貴重な経験を積むことができ、一生の財産となる知識・技術を身につけました。

主に研修では、屋根材の加工を経験しました。元々、会社で皮切りの経験があまりなかったので、この研修で指導員の方々から様々なやり方や技術を教えていただき、とても貴重な経験をしました。

そして、卒業実習の石山寺の現場では、友井君、平尾君とともに指導員の河村さんたちのご指導のもと、自分たちで作った材料で屋根を納めることができ、改めてこの仕事の難しさとやりがいを感じた、この研修で一番の経験となりました。

本当に難しい仕事だなと年数が経てば経つほど痛感しますが、ここで学んだことを忘れずに、会社に帰ってからも同期の友井君、平尾君とお互いに切磋琢磨しながら伝統を受け継ぎ、次の世代の手本になれるように精進していきたいと思います。

最後に本日ご出席いただきました皆様、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、修了生代表の挨拶とさせていただきます。

全国社寺等屋根工事技術保存会 友井会長からの挨拶

文化財屋根葺士養成研修 第26期生 前期研修

期　間 ● 令和７年５月12日（月）～９月30日（火）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

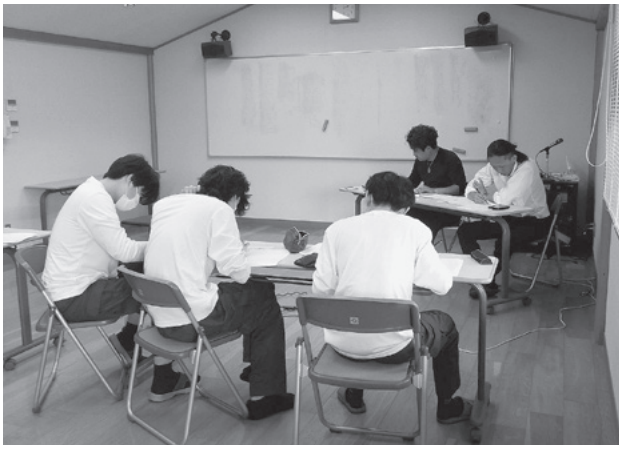
令和7年度国庫補助事業、文化財屋根葺士養成研修第26期生が４月17日（木）に京都市文化財建造物保存技術研修センターで開講式を行い、５月12日（月）から前期の研修を開始致しました。今回３名の研修生が研修を受けております。

研修内容は、実技として材料整形・模型を使用した屋根葺・現場実習と、座学として、日本建築史、積算・仕様・工程管理、建築史演習、文化財保護法、日本建築の構造と仕様、原材料採取方、労働安全衛生法、専門工法などたくさんの科目があります。

今年度からは、一部の講義を研修生だけでなく、会員の皆様を対象に聴講生の参加を募集し、一緒に聴講できるようになりました。文化財の修復に携わる者として、知識や知見を広げていただき、スキルアップに役立つものと考えております。直前まで申し込み可能ですので、是非ご参加ください。

研修生の皆さん、この仕事に興味を持ち、有意義な研修になるように頑張ってください。関係者各位には今後とも一層のご指導、ご協力の程よろしくお願いいたします。

現場実習


積算・仕様・工程管理

あて作り

材料整形

葺実習

文化財屋根葺士養成研修 第26期生 前期研修

講義内容の紹介

●講師からのメッセージ

講義項目：日本建築の構造と仕様
［専門科目Ⅰ］

期　　日：令和7年5月19日（月）

公益社団法人
文化財建造物保存技術協会
参事　事業部大阪監理事務所長
丸石　暢彦様

5月19日（月）、「日本建築の構造と仕様」と題して1日掛けて話をしましたが、まず最初に文化財建造物の指定状況を分かってもらうため指定物件の時代別比率、地域別の分布比率を示した円グラフを使って話をしました。話をしながら改めてここ最近の指定により、近現代のジャンルの指定件数が増えたことを認識しました。しかしながら依然、文化財の中心は社寺建造物であることもグラフからは読み取れました。そしてその多くは檜皮、柿を主とした植物性資材で屋根が葺かれ、その維持には定期的な屋根の葺替が必要なことは言うまでもありません。研修生の皆さんはこの役割を担う立場であることは言うまでもありません。今回の研修はその第一歩としての位置づけで、今後、半期、2年に及ぶ研修は貴重な時間を使っての研修となります。より多くの成果が得られることを期待しています。

研修生の皆さんの仕事は屋根に関わる作業なので、建物の修理に関わっているとはいえ、足場が架かっているため建物の全景を見ることなく現場が終わることも多いのではと思います。そういうことからも今回の研修では建物全景が写ったスライドを多く用意して話をしました。できれば今後､研修を受ける中で屋根だけではなく、建物本体にも興味をもってもらい、建物全体のことを理解して仕事をしてもらえればと思います。

今回は屋根葺士の養成研修として3人の研修生の他、聴講生として10人余りの会員の方々の参加もありました。想定以上の多くの方々の参加に講師側も困惑してしまいましたが、研修の最後には聴講生を交えての意見交換で、意義のある会になったのではと思っています。

今回、話をした内容が直ぐに仕事に役立つものではないと思います。しかし、今後、仕事をしていく中で、何かの折に思い出してもらい、役立ってもらえればと願っています。今後もさらに研鑽を積んで立派な職人になってもらい、文化財の保存の重責を担ってもらいたく思います。

講義項目：建築史演習［専門科目Ⅱ］
内　　容：建造物保存修理の概要説明（1.5時間）
文化財建造物の見学（2.5時間）
保存修理現場等の見学（3.0時間）
期　　日：令和7年5月20日（火）

京都府教育庁指導部
文化財保護課
参事　**島田　豊**様

まずはスライドを用いて、建造物保存修理の制度、種類、進め方、植物性屋根以外の工種の工事内容などについてお話ししました。その上で、植物性屋根の文化財建造物の実例として、清水寺と京都御所の建造物の見学、

植物性屋根の保存修理現場として妙心寺庫裏・大徳寺方丈の見学を行いました。研修生にはこのような経験を通して、文化財建造物に関する様々なことに興味を持ち、知見を広げていっていただければと思います。

講義項目：**日本建築史**［専門科目Ⅰ］
内　　容：**桂離宮 の意匠と文化的背景**
期　　日：令和7年5月23日（金）、6月6日（金）

京都女子大学
名誉教授　**斎 藤　英 俊** 様

5月23日（金）と6月6日（金）の各4時間、合計8時間を掛けて「日本建築史」の講義を行いました。一般的な「日本建築史」の講義では、先史時代の住居から始まり、古代・中世の寺院建築や神社建築の構造的発展、寝殿造りから書院造りへの空間的・平面的変遷、江戸時代の民家建築の地方的特色などなどを解説するのが定番かと思います。しかしこれらの建築の歴史を丁寧に説明するのには8時間では足りません。また、一通りの知識の習得ならば、参考書や教科書を読めば済みます。

以上の事から私の講義では、テーマを「桂離宮」に絞り、桂離宮の建築の文化的背景と意匠に関して詳細に紹介しました。桂離宮の建築は簡素な美しさが高く評価されています。また、一般的には侘び寂の造形、茶の湯の空間などと評価されることもあります。はたして、そうなのでしょうか。桂離宮がどのような時代背景の中で造られ、どのような人によって、どのような目的で造営されたかを知れば、桂離宮は王朝的な美意識と和歌的世界で構築されていることを理解することができます。その意図は桂離宮の庭園や建物の構成や細部の意匠に見いだすことができるでしょう。

皆さんの仕事は、一般の人が近寄れないような歴史的に価値の高い建物を後世に長く残すための極めて重要な作業なのです。皆さんが担当する建物を単に仕事場として考えるのではなく、そうした建物が生まれた時代や文化的な背景を学べば、仕事が一層楽しく、やり甲斐を感じられるものになると確信しています。

柿葺や檜皮葺の伝統の技は UNESCO 無形文化遺産に登録されている「伝統建築工匠の技」の構成要素の1つです。皆さんが背負っているのは、世界に類例のない貴重で素晴らしい人類の宝です。20年、30年後には皆さんが中心となって、日本が世界に誇る技を伝えていくことになります。皆さんの研鑽と活躍を期待しています。

講義項目：**文化財保護法**［専門科目Ⅰ］
内　　容：**文化財保護制度の概要、文化財保護の体系、文化財保護の制度、伝達フローチャート、文化的景観**
期　　日：令和7年8月1日（金）

office 萬瑠夢
代表　**村 田　信 夫** 様

今年の研修生3人は、一言でいうと「もの静かで温和」。講師の斎藤先生とも「最近の若い子はえらいおとなしいなあ」と話していたのですが、正直なところ、もう少し元気があってほしいと感じたのも事実です。

そんな場を盛り上げてくれたのが、一緒に参加された聴講生の方々でした。活発に質問や意見を投げてくださったおかげで、研修生たちも刺激を受け、結果として非常に中身の濃い研修になったと思います。

研修生の皆さん、職人の世界は「聞いてなんぼ、動いてなんぼ」です。次回の研修では、こちらが驚くくらい

ガツガツと前のめりな姿勢を見せてくれることを期待しています。活気ある場を作っていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

講義項目：**労働安全衛生法**［特別科目］

内　　容：**法律の成り立ちとその背景**
労働災害の発生メカニズムとその防止策
災害事例の紹介と発生時の対応
熱中症の予防と対応策、法改正の内容

期　　日：令和7年8月29日（金）

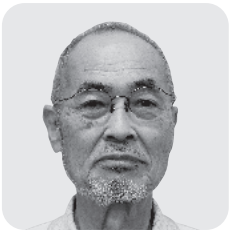
髙橋事務所
髙 橋　弘 次 様

研修のテーマである労働安全衛生法は、働く人の安全と健康を確保し、快適な職場環境を形成するための重要な法律です。講義では、法律の成り立ちや背景にも焦点を当て、安全衛生に対する意識を向上していただけるようお話ししました。職業柄、危険を伴うお仕事です。この講義を通じて、あらためて自分自身の安全と健康を見直す機会になれば幸いです。

講義項目：**原材料性質と種類**［専門科目Ⅰ］

内　　容：**植物の分類と性質等について、植物の分類、植物の生態、樹木の構造、樹木について、檜の歴史、檜皮葺、茅葺について、文化財の伝統技術 等**

期　　日：令和7年9月25日（木）、26日（金）



岡山市半田山植物園
園長　**柴 田　映 昭 様**

日常生活に於いて、ほとんど関わりのない植物についての講義は、研修生にとって違和感というか場違いな内容と感じたようである。しかし、今後、職業として携わる文化財の修復に於いて、植物は原材料として避けて通ることのできないものであり、知識の習得について前向きに取り組まなければならないという姿勢が見受けられた。

また、今回から会員、準会員の方が聴講生として参加された保存会の取り組みは、実際に携わってこられたうえでの参加ということで、踏み込んだ質問等、研修生にとって参考になったのではないかと思います。

令和７年度
「文化財屋根葺士養成研修」の座学

期　間 ● 令和７年５月12日（月）～９月30日（火）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度、新たな試みとして「文化財屋根葺士養成研修」の座学（外部講師担当分）を、当会の正・準会員に開放いたしました。有識者による貴重な講義を広く共有する初の取り組みでしたが、幸いにも多くの方々に参加いただくことができました。

聴講生からは、文化財保護法の成り立ちや日本建築史、技術の基礎となる植物学などを通じ、「文化財保存の意義と技術継承の重要性を再確認できた」との感想が多く寄せられました。門戸を広げたことは、技術者としての理解を深める非常に有意義な試みであったと感じております。今後も本取り組みを継続してまいりますので、ぜひ多くの方に聴講していただければ幸いです。

●聴講生の声

佐々木 綾子［有限会社 ひわだや］

文化財屋根葺士養成研修の聴講では、文化財建造物及び日常の業務に関連する法規、知識を体系的に学ぶ機会となった。「日本建築史」では、古代からの建築の推移を学ぶ中で、具体的な文化財建築を取り上げての解説もあり、今後実際に本物を見て学んでいく道筋を与えていただいた。「文化財保護法」では、文化財建造物に対する法知識はもちろんのこと、その知識を踏まえ保存会会員としての提案力も磨かなければならないと決意を新たにした。「労働安全衛生法」では、命に直接関わる安全衛生教育が事業所としての最重要事項であることを再認識した。万一の場合の行動マニュアルを再確認できたことは大きな成果だった。「材料の性質と種類」では、樹木の知識を取得するのみならず、檜皮葺に関する先生ご自身の熱い思いに感銘し、日本の風土の中で檜皮葺を継承していく事業者としての使命を再確認した。

このような機会を与えていただき、保存会事務局、聴講の方々、文化財屋根葺士養成研修生にも改めて感謝申し上げたい。

大石 薫利［谷上社寺工業株式会社］

今回の研修（講習）では、法律や植物学、建物の構造など、屋根を巡る多角的な視点から学びを得ることができ、非常に有意義な時間となりました。

入社6年目を迎えましたが、屋根の世界は奥深く、自

分の経験がまだ点に過ぎなかったことを痛感しています。特に印象的だったのは、文化財保護法などの現代のルールが整備される以前から、その時々の人々の暮らしや知恵によって建物が守られ、変化を遂げてきたという歴史的背景です。私たちの携わる仕事が、単なる修理や施工ではなく、長い年月をかけて受け継がれてきたバトンを受け取る行為なのだと改めて実感しました。

「屋根」という一つの対象にも、法律や自然、意匠など数多くの要素が絡み合っています。今回の学びを機に、今後も専門外の視点からも知識を深め、より広い視野を持って日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

楠本 浩史［桧皮葺古家］

桧皮葺古家に入り歩み続けていますが、特に入社後10年間は少人数で現場の忙しさに追われ、体系的な研修を受ける機会をなかなか持てずにいました。今回、改めて腰を据えて学ぶ機会を得られたことは、私にとって非常に大きな財産となりました。

講義では、日本建築の構造や仕様が時代ごとに変遷し、柱の太さや装飾の趣が変化していく過程に深い興味を惹かれました。また、文化財保護法が幾多の歴史的危機を乗り越えて成立した背景を学び、私たちが日々向き合っている仕事がいかに貴重な文化的価値を守るものであるかを再認識し、身の引き締まる思いがしました。

実務に直結する原材料の講義では、植物の持つ多様な性質を学びました。特に檜皮採取の際、内樹皮やその奥の形成層を決して傷つけてはならないという「鉄則」の科学的な理由を理解できたことは大きな収穫です。これまでは経験則として守ってきた作法が、理屈を伴った確信へと変わりました。

長年の現場経験という「点」が、知識を得たことで「線」としてつながった有意義な時間でした。この学びを糧に、伝統技術の継承と安全な現場づくりにいっそう邁進してまいります。

令和7年度
檜皮採取者（原皮師）中級研修

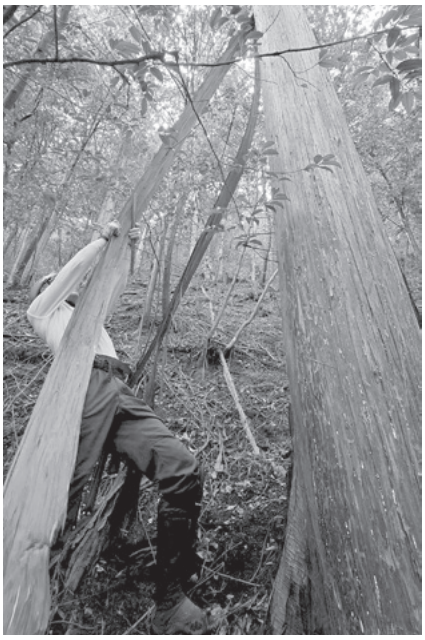
期　間 ● 令和７年８月25日（月）
～令和８年１月23日（金）
研修生 ● 12名

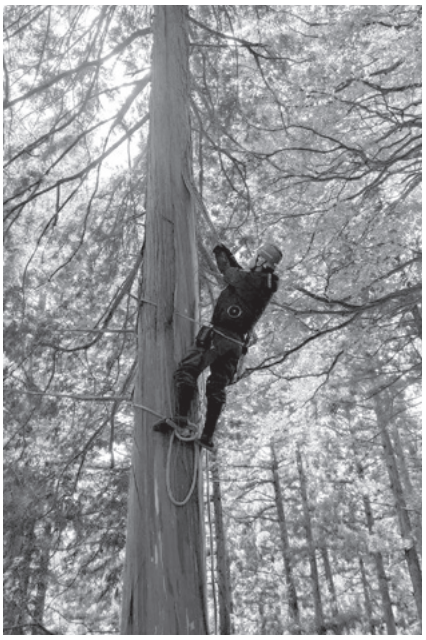
令和７年度の檜皮採取中級研修は、８月25日（月）の野山国有林（奈良県）から始まり、仏通寺国有林（広島県）、賤母国有林（長野県）、権現山国有林（和歌山県）、城山国有林（山口県）、鞍馬山国有林（京都府）、千石谷市有林（大阪府）、栃本市有林（埼玉県）、大瀧神社（福井県）、九州大学福岡演習林（福岡県）にて全13クールの研修を行い、１月23日（金）に終了しました。

厳しく険しい環境の中での作業となりましたが、各クールのリーダーのもと、違う事業所の研修生たちが切磋琢磨し、貴重な檜皮資材の確保及び技術の研鑽に励んでいただきました。今年度は熊出没情報も国内で多く報道され、事業短縮の判断を余儀なくされることもありました。本年度も研修林を提供していただきました皆さまに感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

採取された丸皮の集積（鞍馬山国有林）

ヘラ入れ（九州大学福岡演習林）


檜皮の剥き上げ（権現山国有林）


檜皮の剥き上げ（賤母国有林）

檜皮の荷造り作業（仏通寺国有林）

檜皮の荷造り作業（野山国有林）

檜皮の切断（大瀧神社民有林）

令和7年度
檜皮採取査定会

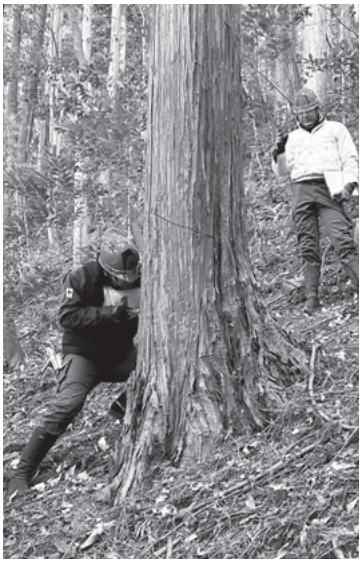
期　日 ● 令和８年１月22日（木）、23日（金）
会　場 ● 城山国有林（山口県）

檜皮採取査定会は、Ｂランク及びＣランク研修生の檜皮採取研修の日頃の成果を査定するとともに、技術の継承と理解向上を目的として実施しています。

当日は、当保存会副会長をはじめ理事、指導員及びＣランク研修生が参加し、総勢５名で行いました。審査を受ける研修生は１名、査定員は指導員２名、理事２名の４名にて実施しました。

査定日は少し雪も舞う寒さの中でスタートし、かなりの急斜面ではありましたが、研修生は厳しい環境にもめげずにひたむきに採取に取り組んでいました。会員の方も熱心に作業する研修生をじっと見つめておられました。今後も採取研修事業の技術研鑽や資材確保の充実に向け、取り組んでいただきたいと思う所存です。

この度の査定会にご協力いただきました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。


査定員が見つめる中真剣に作業をする研修生

ぶり縄を使用しての檜皮採取

集積場所まで檜皮を運ぶ研修生

荷造り作業を確認する査定員

結束後大切り包丁で檜皮を切断

査定会後の記念写真

令和7年度
檜皮採取視察会及び見学会

本年度も各地にて檜皮採取視察会及び見学会を行いました。檜皮採取の技法を見て、触れる場を提供し、日本の伝統技術・文化財を身近に感じていただく取り組みとして、原皮師を講師に毎年行っています。

長野県の林業大学校や南木曽町立南木曽小学校をはじめ木曽森林管理署南木曽支所、奈良森林管理署、広島森林管理署、和歌山森林管理署新宮森林事務所、河内長野市役所の方々に原皮師の技術を注目いただけたことがとてもありがたいと感じました。

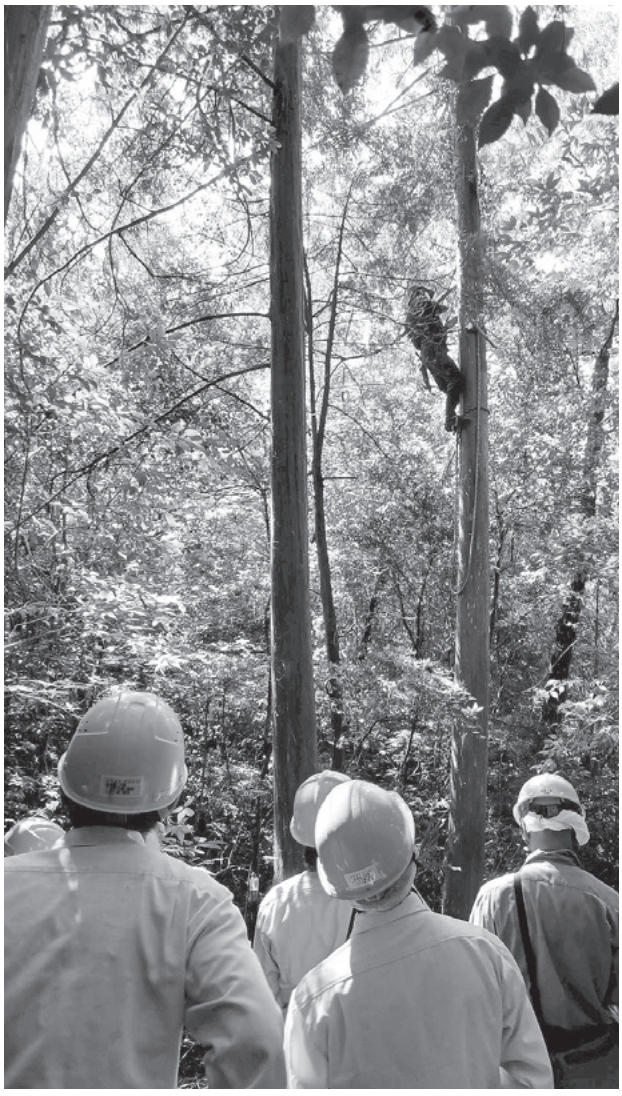
今後も檜皮採取見学会を通じて、伝統文化に触れていただく機会を提供し続けてまいります。

視　察　会

期　　日 ● 令和７年９月２日（火）、９月16日（火）、11月７日（金）、11月10日（月）
会　　場 ● 千石谷市有林（大阪府）、権現山国有林（和歌山県）、仏通寺国有林（広島県）、野山国有林（奈良県）
参加団体 ● 奈良森林管理事務所、広島森林管理署、河内長野市役所、和歌山森林管理署新宮森林事務所

作業を見つめる森林官

原皮師の作業を視察する森林官


森林官による視察

見　学　会

期　　日 ● 令和７年10月８日（水）、10月10日（金）
会　　場 ● 賤母国有林（長野県）
参 加 者 ● 長野県林業大学校、南木曽町立南木曽小学校

●南木曽町立南木曽小学校

作業を見つめる小学生たち

指導員の説明を一生懸命に聞く

●長野県林業大学校

ぶり縄での木登りを体験する林大生

学生の視線を浴びながら檜皮採取作業に取り組む原皮師

見学会の説明風景

檜皮荷造り作業に注目する林大生

令和7年度
第4回指導者,準会員合同研修会

期　日 ● 令和７年12月18日(木)、19日(金)
会　場 ● 九州大学福岡演習林
協　力 ● 九州大学福岡演習林

実演する研修生

今回の指導者,準会員合同研修会は九州大学福岡演習林で開催しました。

当日は45名の参加があり、1日目は九州大学福岡演習林内のヒノキ林にて指導員２名、採取研修生７名による採取の実演を行い、参加者及び大学関係者も交えての見学会となりました。２日目は九州大学 大学院農学研究院 教授 古賀 信也様より「九州大学福岡演習林における檜皮研究」をテーマに講義をしていただき、講義後には当保存会の指導員２名と大学関係者及び参加者による意見交換会も行いました。最後に文化庁 文化資源活用課 修理指導部門 文化財調査官 結城 啓司様より総括をしていただきました。

檜皮採取の説明を行う指導員

古賀教授による演習林の説明

古賀教授による講演

実演見学会

説明・解説 ● 九州大学 大学院農学研究員　教授・博士(農学)　**古賀 信也 様**

1日目

講演会、意見交換会

挨　　拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**友井 辰哉**

講　　義 ● 九州大学 大学院農学研究員　教授・博士(農学)　**古賀 信也 様**
テーマ「九州大学福岡演習林における檜皮研究」

総　　括 ● 文化庁 文化資源活用課 修理指導部門　文化財調査官　**結城 啓司 様**

2日目

令和７年度
茅葺中級研修

期　間● 令和７年９月１日（月）～30日（火）
　　令和８年１月12日（月）～17日（土）
現　場● 茅葺／史跡足利学校 裏門
　　（栃木県足利市昌平町2338）
　　茅刈り／大室山（静岡県伊東市）

今年度は、9月1日（月）～30日（火）まで栃木県足利市の史跡足利学校裏門において葺き替え研修を行いました。研修では、当会準会員 猿橋成博が指導にあたり、研修生２名は宮城、新潟からの参加となりました。

また、令和８年1月12日（月）～17日（土）までの茅刈り研修では、当会正会員 大西謙之・水野暁彦がそれぞれ指導にあたりました。研修生４名は岐阜、宮城、新潟、山梨からの参加となりました。地域の皆さまにもご協力いただき、今年も良質な茅が採取できました。

史跡足利学校　裏門

講　師●**猿橋 成博**（株式会社 茅葺屋根保存協会）
研修生●**金沢 翔太**（有限会社 熊谷産業）
　　渡辺 和也（株式会社 越乃かやぶき）

棟積み

平葺き

大室山　茅刈り

講　師●**大西 謙之**（合同会社 大西茅葺）
　　水野 暁彦（株式会社 茅葺屋根保存協会）
研修生●**山口 成貴**（田中社寺株式会社）
　　金沢 翔太（有限会社 熊谷産業）
　　八ッ橋 崇市郎（株式会社 越乃かやぶき）
　　新津 侑樹（株式会社 石川工務所）

茅刈り

令和７年度
茅葺きフォーラム

期　日 ● 令和７年９月12日（金）
会　場 ● 史跡足利学校裏門 屋根葺替研修現場
（栃木県足利市昌平町2338）
足利のわかりやすい歴史館（足利まちなか遊学館）
（栃木県足利市通1丁目2673 - 1）

令和7年度中級技術研修の期間中に現場見学及び協議会を開催しました。今回は、栃木県足利市の史跡足利学校裏門の屋根を葺き替える研修で、講師 猿橋 成博の指導のもと栃木県特有の屋根の葺き方を教わる機会に恵まれました。

協議会では史跡足利学校 研究員・学芸員 大澤 伸啓様、公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 増渕 靖裕様、京都女子大学 名誉教授 斎藤 英俊様にご講義をいただき、短い時間ではありましたが、足利学校や文化財建造物の歴史について学ぶことができました。

講師と研修生によるパネルディスカッションも行われ、栃木県特有の茅葺屋根の技術などについても討論を深めました。

史跡足利学校裏門 見学会

見 学 会　「史跡足利学校裏門」

現 場 説 明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　講師　**猿橋 成博**
史跡内施設案内 ● 史跡足利学校　所長　**齋藤 和行 様**

協 議 会　「足利のわかりやすい歴史館」

挨　　拶 ● 足利市教育委員会 文化課　課長　**中村　等 様**
開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**友井 辰哉**
講　　義 ● 史跡足利学校　研究員・学芸員　**大澤 伸啓 様**
テーマ「史跡足利学校の歴史について」

公益財団法人 文化財建造物保存技術協会　**増渕 靖裕 様**
テーマ「茅葺屋根の復原　岩屋熊野座神社覆屋の事例」

京都女子大学　名誉教授　**斎藤 英俊 様**
テーマ「世界遺産：白川郷・五箇山の合掌造り集落」

討 論 会 ● 議題「栃木県の茅葺屋根の特徴と実技解説」
進行者　公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　茅担当理事　**長﨑 貴宣**
総　　評 ● 文化庁 文化資源活用課　文化財調査官　**稲垣 智也 様**
閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　副会長　**河村 雅史**

協 議 会

◀史跡足利学校
研究員・学芸員 大澤 伸啓様

足利市教育委員会 文化課▶
課長 中村 等様

(公財) 文化財建造物保存技術協会▶
増渕 靖裕様

協議会風景

◀京都女子大学
名誉教授 斎藤 英俊様

文化庁 文化資源活用課▶
文化財調査官 稲垣 智也様

協議会風景

パネルディスカッション風景

集合写真

令和７年度
屋根板製作者養成研修

期　間 ● 令和７年11月10日（月）～20日（木）
場　所 ● 株式会社児島工務店 島根工場
講　師 ● 嘉本　洋士（株式会社児島工務店）

平成30年に屋根板製作選定保存技術の保存団体として認定を受けたことを契機に、平成31年度より屋根板製作者養成研修を行うこととなりました。株式会社児島工務店の協力のもと、研修生３名を対象に令和７年11月10日から20日までの期間で実施しました。

研修生は、杉材を用いて原木の見分け方、材の取り方、木取り方法の基本、その後平板（1.0尺×1.0尺）の拵えなどを習い、興味深く熱心に作業を行っていました。初めて行う作業なので最初は戸惑っていましたが、最終日に近づく頃には随分手慣れた様子で、作業は順調に進みました。後期研修でも屋根板製作者養成研修があります。今回の研修を生かし、技術向上するように頑張ってほしいと思います。

文化財建造物を保存していくうえでは、良質な資材の確保が必要になってきます。研修生には、この研修を通じて屋根板製作の大切さを十分に理解し、良い経験にしていただきたく思います。

来年以降も研修は続きます。この研修がいつまでも続くよう皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

木取りの説明をする講師

板へぎ作業をする研修生

板へぎ作業をする研修生

板へぎ作業をする研修生

主任文化財屋根葺士 第25回 検定会 実施

期　間 ● 令和７年10月20日（月）～25日（土）
会　場 ● 山南ふるさと文化財の森センター
受験生 ● 茅葺師2名、檜皮葺師2名

今回の検定会は茅葺師２名、檜皮葺師２名での受験となりました。茅葺師の受験生２名については、実技試験は合格し、そのうちの１名は筆記試験が不合格となりました。筆記試験だけ不合格の場合は、もう一度筆記試験だけの受験可能という特例がありますので、しっかりと学習し、断面図、計算など間違いがないようにして再チャレンジしてほしいと思います。

筆記試験で気になったのは、材料の数量間違い、図面から面積を出す際の寸法の読み間違いが多くあったことです。ここは責任者として必要な能力なので、間違いをしないように心がけてほしいところです。

檜皮葺の受験生２名については、双方とも実技試験で合格点に達せず、残念な結果となりました。各理事の採点では、箕甲の仕上がり、水切りの仕上げなど、基本的なところの技術をもう少し上げてほしいという意見が多かったように思います。各地方公共団体からの採点も少し厳しい声が上がり、検定会の水準を維持していくためにも辛めの採点になったかと思われます。

実施試験に挑む受検者

実施試験に挑む受検者

葺かれた屋根をチェックする検定員

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

期　日 ● 令和７年11月14日（金）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今回の更新講習会の参加者は26名、講師は京都女子大学 鶴岡 典慶教授です。昔とは違い、下請けに対して指導することなど、現在では更新講習会に参加している責任者としての立場でやることが増えました。

公共工事扱いであることが多い文化財の現場では、施工体制、状況、品質など、様々な箇所を我々屋根葺師も見なくてはならなくなりました。現場代理人と主任技術者は兼務可能なので、多くの現場で兼務している方が多いとは思いますが、基本的な仕事の違いを理解しているか再度の確認になったかと思います。現場代理人は会社代表の代行として工事に参加し、全体的な管理業務を役割とします。直接、施工以外で発注者との交渉請求などを担当し、主任技術者は施工計画、工程管理、品質管理、技術的指導を行わなくてはなりません。

今後、より一層必要となっていくのは、施工、工程管理、安全対策、対外関係、新規入場チェックなどの記録類、法的な提出書類を遵守することです。品質や材料の出来栄えについても工夫し、よりよい報告となる打ち合わせをした上で施工することを心がけなければならないということです。さらに、社会性の観点から積極的に地域還元、情報発信をしていかなくてはなりません。これらの内容を踏まえた上で、主任文化財屋根葺士としての意識を持ってほしい、という鶴岡先生からの講義となりました。

鶴岡 典慶講師の講習

令和7年度
文化財研修会

日　時 ● 令和７年８月29日(金) 13:00～15:30
会　場 ● 大本山妙心寺 花園会館
（京都市右京区花園木辻北町1-5）

今年度の文化財研修会は、大本山妙心寺 大庫裏保存修理工事の現場見学と、隣接する花園会館で大本山妙心寺 法務部長 柴山 昌実様による講演、そして工事担当の京都府教育庁 指導部文化財保護課 主査 村瀬 由紀史様による概要説明がありました。日本に数多くある臨済宗寺院約5,650院のうち約3,350院が妙心寺派であり、その大本山であるのが京都花園にある大本山妙心寺です。そのような場所での開催に、全国から正・準会員約65名の参加がありました。

始めに、柴山様から「妙心寺の歴史について」と題する講演がありました。約700年もの長い歴史の中で、数々の動乱や戦乱の時代に翻弄されながらも、少しずつ、また時には大きく変化をしながら今日に至る話など、大変興味深い内容でした。

次に、村瀬様から、大庫裏保存修理工事の「修理概要説明と耐震補強について」の話がありました。地震大国日本である以上、耐震補強は切っても切り離せない重要なテーマとなります。我々の仕事とも関わりのある内容なだけに、真剣に耳を傾け、大いに勉強になりました。

その後は修理現場「大庫裏」の見学を行いました。「大庫裏」の建立は享禄元年(1528)、現在の庫裏は承応２年(1653)に改築されたもので、国内にある寺院の中でもとりわけ大きな規模の庫裏です。30年ぶりの柿葺き替え工事であり、大変貴重な機会となりました。

暑い中ではありましたが、皆さまの御協力のもと無事に研修会を終えることができ、感謝しております。御協力いただきました大本山妙心寺の皆さま、法務部長の柴山様、京都府教育庁 指導部 文化財保護課 主査 村瀬様には心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

講演風景

概要説明風景

研修会

研 修 会　「第18回 文化財を支える技術2025 in 大本山妙心寺」

会場●大本山妙心寺 花園会館

開 会 挨 拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**友井 辰哉**

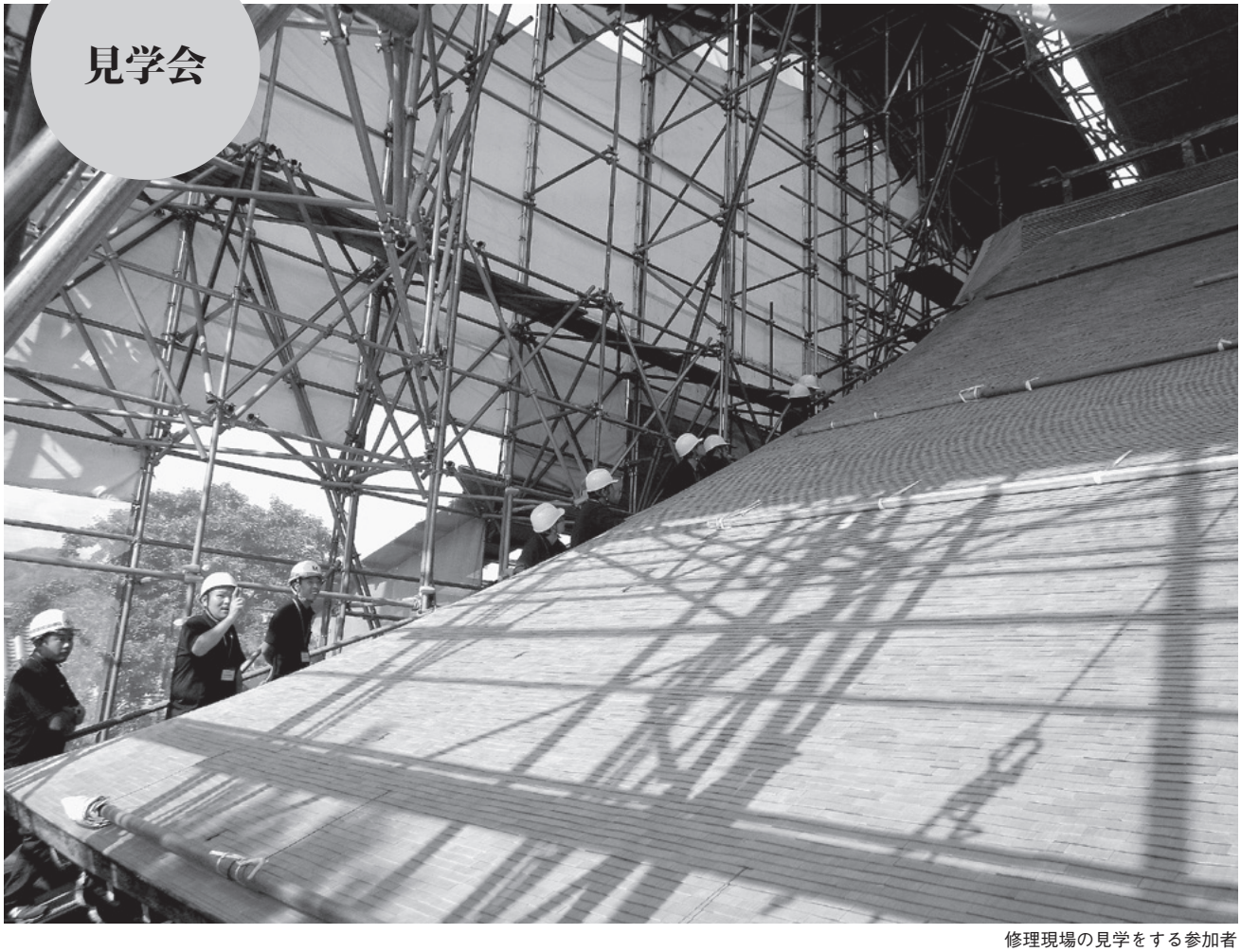
講　　演 ● 大本山妙心寺　法務部長　**柴山 昌実 様**
テーマ「妙心寺の歴史について」

概 要 説 明 ● 京都府教育庁 指導部 文化財保護課　主査　**村瀬 由紀史 様**
「修理概要説明と耐震補強について」

閉 会 挨 拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　副会長　**河村 雅史**

見 学 会　「大本山妙心寺　大庫裏保存修理工事現場」

見学会



修理現場の見学をする参加者

令和7年度
第１回 文化財フォーラム（檜皮葺）開催

日　時 ● 令和８年２月12日（木）15：00～17：00
令和８年２月13日（金）10：15～15：30
会　場 ● 嚴島神社 五重塔
（広島市廿日市市宮島町1-1）
etto（エット）宮島交流館 ホール
（広島県廿日市市宮島町412）

嚴島神社にて、２日間にわたり第１回檜皮葺文化財フォーラムを執り行いました。初めての試みとなった今回の檜皮葺文化財フォーラムですが、現在工事中の嚴島神社 五重塔の現場見学に始まり、日を跨いでのetto宮島交流館ホールでの講義、討論会と、充実した内容となりました。講義においては、まず始めに、元請でもある株式会社増岡組の舛本様による工事の概要説明を行ってもらいました。次に、嚴島神社工務所の技師でもある原島様に、嚴島神社の歴史から、これまでの台風による被害との闘いや珍しい二重屋根構造についての話まで、多岐にわたる内容となりました。

続いて、岡山理科大学 特担教授である江面先生による講義が行われました。表題にある「文化財保護の目的と創造的活用」とはどのようなことをいうのか。それには、まずは文化財とは何なのかというところから始まり、日本に古くから伝わる目に見えるものや見ることのできない無意識にあるものを、時間をかけて落とし込んでいくことにより文化は育まれていくということ、さらに、それをどのように活用していくのか等まで、非常に深く考えさせられる内容となりました。

最後に６名の職人によるディスカッションを行いました。内容は五重塔の施工における要点と檜皮の材料整形における各社の認識について、それぞれ意見を出し合いました。限られた時間の中でしたが、パネラーである各社の皆さんがどのようにして材料整形をしているのか、これだけの複数業者が同時にすり合わせをすることは簡単なことではないので、当保存会にとっても大変意義のある意見交換となりました。

今回、初の開催ではありましたが、多くの参加者を迎え、賑わいのあるフォーラムを開くことができました。これからもこのように多くの業者を交えての見学会、及び協議会を開催し、切磋琢磨しながら、屋根保存会としても、この仕事に従事している一個人としても日々精進していけるよう努力してまいります。

関係者の皆さまにはこのような機会を与えていただきこの場をお借りして御礼を申し上げます。

見 学 会 「嚴島神社 五重塔」

現場説明・質疑応答 ● 嚴島神社工務所　技師　**原島　誠 様**

協 議 会 「etto宮島交流館 ホール」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　会長　**友井 辰哉**

講　　義 ● 株式会社増岡組 広島本店　現場代理人　**舛本 貴幸 様**
テーマ「国宝及び重要文化財嚴島神社東廻廊ほか７棟 建造物保存修理工事 工事概要説明」

嚴島神社工務所　技師　**原島　誠 様**
テーマ「嚴島神社五重塔檜皮葺について」（嚴島神社指定建造物の屋根から）

岡山理科大学　特担教授　**江面 嗣人 様**
テーマ「文化財保護の目的と創造的活用」

討 論 会 ● 職人（事前に選任）によるディスカッション
進行者　公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　理事　**松村 正徳**

総　　評 ● 文化庁 文化資源活用課　文化財調査官　**結城 啓司 様**

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会　副会長　**河村 雅史**

見　学　会

工事概要を受ける

五重塔 檜皮葺見学

協　議　会

講義風景

令和7年度　ふるさと文化財の森システム推進事業「森が支える日本の技術　2025公開セミナー」開催

今年は2日間の平日開催で、見学・体験会、講演会を執り行いました。

清水寺境内においては、昨年に引き続き板割りの実演を行いました。また、研修生による檜皮葺の実演、模型を使っての竹釘打ち体験、ビデオ上演などの催しも行いました。そして、京都市文化財建造物保存技術センター内では、八幡市立松花堂庭園・美術館 館長 平井 俊行様を招いて、「近世の植物性屋根材の変遷について」と題する講演を行いました。

今回は初の平日開催となりましたが、休日開催と比べ観光客の数にさほどの違いを感じることもなく、多くの方々に我々の事業についての紹介や体験をしてもらうことができたのではないかと思います。

また、昨年同様、檜皮採取の実演見学会を滋賀県大津市の園城寺（三井寺）にて行いました。11月初旬の開催とあってか紅葉にはまだ少し早く、昨年ほどの参拝者は見受けられませんでしたが、昨年も来られたリピーターの方やわざわざこの見学会を目当てに来られた方、偶然通りかかった方もおられ、今回も賑わいのある見学会となりました。頭上遥か高いところに縄ひとつで上り下りしながら作業をする姿に驚きと感心をもって見学されていました。

今後も檜皮採取や檜皮・柿・茅葺のことをより認知してもらえるよう、引き続きこの様な活動を絶えず行い、同時に多くの人々に少しずつでも興味・関心を持ってもらえるよう、技術向上を目指して精進していきたいと思います。

今年もこのような機会を与えていただき、関係者の皆さまにこの場をお借りして御礼を申し上げます。

清水寺境内会場風景

名　　称 ● 令和7年度 ふるさと文化財の森システム推進事業「森が支える日本の技術 2025公開セミナー」

主　　催 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

期　　日 ● 令和7年10月1日（水）・2日（木）、11月8日（土）

会　　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター（京都市東山区清水２丁目205-5）
清水寺 仁王門周辺（京都市東山区清水1丁目294）
園城寺（三井寺）境内林（滋賀県大津市園城寺町246）

共　　催 ● 京都市

後　　援 ● 京都府教育委員会、京都市教育委員会、林野庁 近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所、
公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益財団法人 京都古文化保存協会、
公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団、京都市内博物館施設連絡協議会

開催内容

1、文化財を支える技術の公開

期　日 ● 令和７年10月１日（水）・２日（木）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター
清水寺境内

（1）伝統技術の実演「ユネスコ無形文化遺産登録
伝統建築工匠の技」

1. 檜皮葺
2. 板割り

檜皮葺実演

板割り実演

（2）体験コーナー
竹釘打ち

竹釘打ち体験

（3）パネル・道具展示
（現場修理写真や道具・模型の展示）

京都研修センター内でのパネル展示

2、文化財講座

「近世の植物性屋根材の変遷について」

期　日 ● 令和７年10月１日（水）
会　場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター
講　師 ● 八幡市立松花堂庭園・美術館
館長 平井 俊行 様

講演風景

3、檜皮採取実演 見学会

期　日 ● 令和７年11月８日（土）
会　場 ● 園城寺（三井寺）境内林

檜皮採取見学会（実演）

檜皮採取見学会（実演）

文化庁主催
「日本の技フェア」開催

日　時 ● 令和７年11月21日（金）～23日（日）
　　10：00～16：00
会　場 ● サンドーム福井 メインホール
　　（福井県越前市瓜生町5-1-1）
主　催 ● 文化庁

福井の魅力と伝統技術の融合

今回は、会場の半分を福井県主催の物産展が占め、残りの半分を私たち技術保存会が担当するという、例年とは異なる新しい試みの構成となりました。地元の特産品と日本の伝統技術が隣り合うことで、より幅広い層の方々に足を運んでいただける機会となりました。

活気あふれる展示と実演

土・日曜日の開催期間中は、会場も大変な活気に包まれました。近年のメディアによる文化財保護への注目もあり、来場者の皆さまは非常に熱心に展示や実演をご覧になっていました。体験コーナーでも、伝統技術の奥深さに触れて喜んでくださる姿が印象的でした。

また、ステージ構成が工夫されていたおかげで、搬入・搬出や設営が例年以上にスムーズに進んだことは、運営面での大きな収穫となりました。

本物の技術を次世代へつなぐために

一方で、今後の運営面については、より良い形を模索していく必要も感じています。現在、限られた予算や人員体制の中で、当会が理想とする「本物の技術を正しく伝える展示・実演」を維持することが難しくなりつつあります。当団体としては、安易な簡略化に流されるのではなく、保存会だからこそ見せられる「本物の価値」を届けることが使命であると考えています。今後は他団体とも手を取り合いながら、実演環境の改善や適切な支援体制について、事務局側へ前向きな働きかけを続けていく予定です。伝統を守る誇りを持ちつつ、より無理のない、かつ質の高い情報発信ができるよう、今回の経験を次の一歩へとつなげてまいります。

竹釘打ち体験

展示

竹中大工道具館企画展
「植物×匠　めぐるいのち、つなぐ手しごと」参加

期　間 ● 令和７年 ７月29日（火）～ ９月28日（日）
　　令和７年10月11日（土）～12月14日（日）
会　場 ● 東京会場　国立科学博物館
　　（東京都台東区上野公園 7-20）
　　神戸会場　竹中大工道具館
　　（兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1）
主　催 ● 竹中大工道具館、伝統建築工匠の会
　　国立科学博物館、竹中大工道具館

竹中大工道具館からの依頼を受け、竹中大工道具館企画展「植物×匠 めぐるいのち、つなぐ手しごと」に参加しました。7月29日（火）～9月28日（日）までは東京会場として国立科学博物館で、その後10月11日（土）～12月14日（日）までは神戸会場として竹中大工道具館にて開催され、その間の7月20日（日）に当正会員 大野 浩二による「山と人をつなぐ仕事―原皮師が語る、檜皮採取の世界」と題した講演を行い、10月25日（土）、26日（日）には檜皮・柿の材料整形実演と竹釘打ち体験を共に竹中大工道具館にて行いました。

長い会期中で２日間のみの体験・実演会であったにも関わらず多くの方が来場されたことに驚きましたが、大工道具や建築技術、日本の伝統建築に興味のある方にとって格好の場所とあって、非常に盛り上がりのある体験・実演会となりました。

神戸会場チラシ

講演会

参加人数 ● 81 名（内外国人2名）

講演風景

体験・実演会

参加人数 ● 347 名（内外国人 70 名）

各種屋根展示

竹釘打ち体験

板割り説明

■準会員

［五十音順］

No.	氏　　名	職　　種
1	青木　照幸	檜皮葺
2	青山　　亨	檜皮葺・柿葺
3	朝野　達也	檜皮葺・柿葺
4	芦田　健太	檜皮葺・柿葺
5	蘆田　祐明	檜皮葺・柿葺
6	足立　健一	檜皮葺・柿葺
7	足立　大茂	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
8	足立　　諒	檜皮葺・柿葺
9	安部　悟司	柿　葺　屋根板製作
10	飯野　映稚	檜皮葺・柿葺
11	石井　　潤	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
12	石川　和重	管　理
13	石塚　健一	竹釘製作
14	石原　直和	檜皮葺・柿葺
15	市原　　健	檜皮葺・柿葺
16	一色　律男	檜皮葺・柿葺
17	伊藤　貴弘	檜皮葺・柿葺
18	伊藤　延行	檜皮葺・柿葺
19	井上　裕貴	檜皮採取
20	居原田浩樹	檜皮葺・柿葺
21	入江　　匠	檜皮葺・柿葺
22	岩﨑　　正	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
23	大石　薫利	檜皮葺・柿葺
24	大西　康純	茅　葺
25	大野　隼矢	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
26	緒方　伸也	檜皮葺
27	岡野　史和	檜皮葺・柿葺
28	奥田　治郎	檜皮葺・柿葺
29	尾崎　良助	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
30	加々美　栄	茅　葺
31	方山　和也	檜皮葺・柿葺
32	勝部　哲也	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
33	金沢　翔太	茅　葺
34	包國　眞匠	檜皮葺・柿葺
35	金子　英生	檜皮葺・柿葺
36	亀谷　芳弘	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
37	嘉本　洋士	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
38	川瀬　皆人	檜皮葺・柿葺
39	河野修二郎	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
40	菊池　　保	茅　葺
41	岸　　斗萌	檜皮葺・柿葺
42	岸田智太郎	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
43	岸田　直彦	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
44	吉川　圭一	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
45	木戸　智裕	屋根板製作
46	木下　和也	檜皮葺・柿葺
47	木下　真介	檜皮葺・柿葺
48	木村　健太	檜皮葺・柿葺
49	清田　幸臣	檜皮葺・柿葺
50	栗山　弘忠	屋根板製作

No.	氏　　名	職　　種
51	小池　一平	檜皮葺・柿葺
52	古田島　　進	管　理
53	後藤　哲夫	檜皮採取
54	小西　康介	檜皮葺・柿葺
55	小西　繁信	檜皮葺・柿葺
56	小林　洋介	茅　葺
57	小原　一樹	檜皮葺・柿葺
58	近藤　竜太	檜皮採取
59	寒河江清人	檜皮葺・柿葺
60	佐々木綾子	檜皮葺
61	佐々木孝則	茅　葺
62	佐藤　偉仁	茅　葺
63	猿橋　成博	茅　葺
64	澤田　昌己	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
65	品川　琉心	檜皮葺・柿葺
66	島田　伊織	茅　葺
67	末岡　治人	檜皮葺・柿葺
68	須賀　　均	檜皮葺　檜皮採取
69	須賀　将志	檜皮葺・柿葺
70	杉谷　　功	檜皮葺・柿葺
71	鈴木　礼央	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
72	高木　　諒	屋根板製作
73	高平　勝也	檜皮葺・柿葺
74	竹内　蓮太	檜皮葺・柿葺
75	立木　覚士	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
76	田中智紗衣	管　理
77	田中　智也	管　理
78	寺田美乃里	檜皮葺・柿葺
79	冨樫　忠義	茅　葺
80	戸梶　憲幸	檜皮葺・柿葺
81	徳田　翔琉	檜皮葺・柿葺
82	友井　康介	檜皮葺・柿葺
83	中島　　信	茅　葺
84	永瀬　慶祐	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
85	中西　祥也	檜皮葺・柿葺
86	永原　光敬	檜皮葺・柿葺　屋根板製作
87	中村　裕司	檜皮葺・柿葺
88	新津　侑樹	茅　葺
89	西　　裕之	檜皮葺・柿葺
90	西堀　大樹	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
91	西村　信生	檜皮葺・柿葺
92	野谷　嘉邦	檜皮葺・柿葺
93	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅　葺
94	橋本浩太郎	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
95	東　　友一	檜皮葺・柿葺
96	樋口　　隆	茅　葺
97	檜　　篤広	檜皮葺・柿葺
98	平尾　　零	檜皮葺・柿葺
99	平田　将大	檜皮葺・柿葺
100	平野健太郎	檜皮葺・柿葺

［五十音順］

No.	氏　　名	職　　種
101	平 野 裕 也	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
102	廣 内 　 翔	檜皮葺・柿葺
103	深 本 英 昭	檜皮葺・柿葺
104	福 岡 亮 太	檜皮採取
105	福 留 巧 稀	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
106	藤 中 竜 也	檜皮葺・柿葺
107	藤 原 　 優	茅　葺
108	渕 上 大 輔	檜皮葺・柿葺
109	古 川 友 喜	檜皮葺・柿葺
110	細 見 知 憲	檜皮葺・柿葺
111	細 見 　 裕	檜皮葺・柿葺
112	堀 内 博 樹	檜皮葺・柿葺
113	本 多 亮 貴	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
114	毎 熊 徳 満	檜皮葺
115	槇 原 孝 宜	檜皮葺・柿葺
116	松 田 哲 也	檜皮葺・柿葺　茅葺
117	松 村 省 弥	檜皮葺・柿葺
118	松 村 純 孝	檜皮葺・柿葺
119	松 村 有 記	檜皮葺・柿葺
120	三 上 昭 信	茅　葺
121	道 繁 　 康	檜皮葺・柿葺
122	三ツ出 俊 平	檜皮葺・柿葺
123	緑 川 幹 雄	檜皮葺・柿葺
124	峰 地 幹 太	檜皮葺・柿葺
125	宮 川 義 史	檜皮葺・柿葺
126	宮 西 　 寛	檜皮葺
127	向 田 　 学	檜皮葺・柿葺
128	村 岡 伸 康	檜皮葺　檜皮採取
129	村 上 章 浩	檜皮葺・柿葺
130	森 山 淳 希	檜皮葺・柿葺　檜皮採取
131	八ッ橋 崇市郎	茅　葺
132	矢 野 友 則	檜皮葺・柿葺
133	山 口 成 貴	檜皮葺・柿葺　茅葺
134	山 口 宗 平	檜皮葺・柿葺
135	吉 竹 秀 紀	檜皮採取
136	余 宮 祥 平	茅　葺
137	渡 辺 和 也	茅　葺
138	渡 邉 貴 友	茅　葺
139	渡 部 雄 太	檜皮葺・柿葺

（2025.4.1現在）

京都市東山区清水二丁目 205-5
京都市文化財建造物保存技術研修センター内

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
https://shajiyane-japan.orgg

手練 第２１号
令和７年度 掲載

あ と が き

令和７年度も終わりを迎え、当保存会の事業も無事に終了いたしました。

今年度より新たに４名で開始した「屋根葺士養成研修」は、残念ながら現在３名となりましたが、来年度の後期研修ではさらなるレベルアップを目指し、３名揃っての卒業を期待しております。

今年度も講師の方々や関係者の皆さまには、多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。来年度も様々な事業を推進してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

手練 SHUREN

第21号

公益社団法人　全国社寺等屋根工事技術保存会